

人は皆、創造的である。 創造性を全く持たない人など、この世に存在しない。

残念ながら、このことを証明することはできません。これはあくまで、西本の信念です。人は誰しも、なんらかの創造的能力を持っていると、私は信じています。ただ残念ながら、その能力を存分に発揮できる人は、ほんの少ししかいないのも事実でしょう。非常に多くの人々が、自分が持っている創造的能力を発揮できずにいます。さらには、自分が創造的能力を持っていることに気づいてすらいない人も、たくさんいるようです。

創造性発掘・支援技術 (Creativity Mining & Support Technology) は、そんな多くの人々のうちに眠る創造的能力を、発見し、発掘し、発揮可能とする技術です。

自己の創造的能力への気づきと、その発揮手段保有の有無によって、4つのタイプに分けて支援手段を考えます。

Type 1 : 既創造的人材

自分に創造的能力があることを知っていて、しかもその発揮手段を持っている人です。たとえばプロのミュージシャンやクリエイター、研究者などの、すでに創造的に活躍している人たちがこのタイプに該当します。Type 1の支援では、その人が得意とする創造活動をよりよく実行可能とすることが求められます。従来から行われている創造性支援 (Creativity Support) がこのタイプの支援に該当します。

Brain Transcending : 盲点を活用する発散的思考技法

現在、アイデア出しに最も多用されている技法はブレインストーミングですが、多くの場合、思考者が持つ固定観念の範囲にあるアイデアばかりが得られる結果に陥ります。そこでこの問題を逆に利用し、最初のブレインストーミングで得られたアイデアをもとにして思考者の「盲点リスト」をつくり、この盲点リストを基に再度ブレインストーミングを行うことで、より発散的なアイデアを得る手法を考案しました。

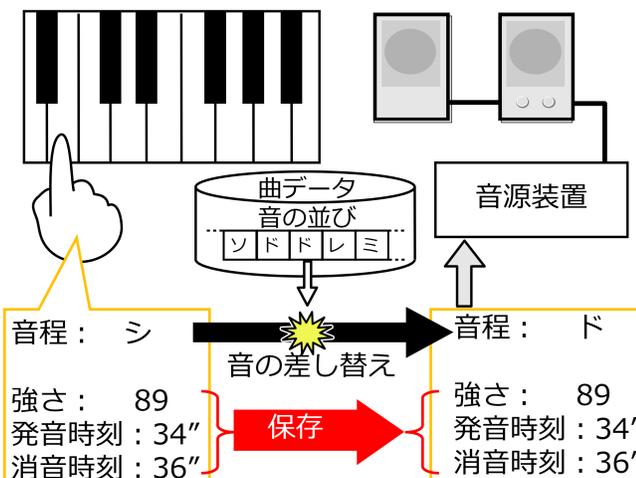


Type 2 : 元創造的人材

自分に創造的能力があることを知っているにもかかわらず、その発揮手段を持たない人です。たとえば、何らかの事故などによってその発揮手段を失った人たちが、なんらかの個人的な理由により、既存の創造活動のための道具を使用することが難しい人たちはです。Type 2の支援では、失われた発揮手段を回復あるいは補完することが必要です。外骨格ロボットやBMIなどが有望な支援手段となるでしょう。

Coloring-in Piano : 無用な自由度を削減する楽器

ピアノ演奏において、手指の関節が十分に開かない人は、大きく離れた鍵を同時に打鍵できません。しかし各演奏時点で必要な鍵の数は、一般にほんの数個です。クラシック音楽などの「楽譜通りに演奏する」ことを求められる楽曲を演奏する場合、各時点で必要な音があらかじめわかっているため、狭い範囲の鍵にそれらの必要な音のみを常に割り当てるようにすれば、手指関節が開かない人でもピアノ演奏の才能を発揮できるようになります。

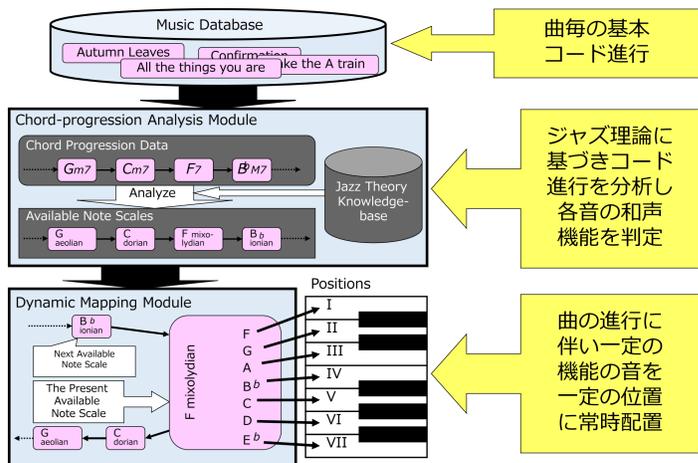


Type 3 : 志創造的人材

自分に創造的能力があるかどうかを確信できず、ゆえにその十分な発揮手段も持っていない人です。換言すれば、自分の創造的能力を信じて、その発揮手段を持つべく努力している人であり、典型的には学生が該当します。一般に、創造的能力の発揮手段獲得には多大な時間と労力を要します。Type 3の支援では、一時的に創造的能力発揮手段を補強することで、本当に自分に創造的能力があるかどうかを確認可能とすることが求められます。

RhyMe : 非創造的プロセスを底上げする即興演奏楽器

ジャズの即興演奏では、楽曲のコード進行を音楽理論に基づいて分析して各時点でのド～シの12の音の響きの澄濁具合 (協和度) を求め、これに基づきフレーズを構築します。この理論的分析は、非常に困難であるにもかかわらず、正解はひとつなので、全く創造的ではありません。そこでこの非創造的プロセスをシステムが代行することで、誰もが本来の創造的プロセスであるフレーズの構築作業に直接的に取り組める楽器を実現しました。



Type 4 : 蒙創造的人材

自分に創造的能力があるとすら思っておらず、ゆえにその発揮手段も当然持っていない人です。「諦めてしまった大人」などがこのタイプに該当します。現実には、このタイプは非常に多く存在すると思われます。Type 4の支援では、創造活動の楽しさへの気づきを与えることが重要です。まず遊びとしての楽しさを提供し、徐々に創造の喜びへと導くことで、興味対象をシームレスに遷移させ、Type 3に変化させることが求められます。

Family Ensemble : 娯楽から音楽創造の喜びへ導く楽器

子供と一緒に演奏を楽しみたいと思う、楽器を弾けない親御さんは多いようです。Family Ensembleは、ピアノを習っている子供の演奏を楽譜と比較して現在どこを演奏しているかを自動認識し、伴奏楽譜上で今弾くべき音を特定します。伴奏者 (親) が任意の鍵を叩くと、特定された弾くべき伴奏音が自動出力されます。これにより、誰でも簡単にピアノ連弾を楽しむことができ、伴奏者は次第に音楽を創造する楽しさに気づきはじめます。

